



北海道歯科医師会 野球大会の思い出

美唄歯科医師会会員 雨田 実



太平洋戦争の終結後、祖国の復興をすべてに優先しての国策にそって石炭の増産こそその大号令のもとに、美唄においても、三井・三菱を始め多くの炭鉱が活況を呈していた。会社も労働組合対策の一つとして福利厚生施設の充実に意を尽くしたものであった。戦前および戦中ではまるで考えられない程の予算を投入したものである。

戦後間もない頃なのに札幌の映画館を負かすような会社直営の立派な映画館で4円99銭で(5円では税金が付くので)大都会の封切の次の週に見せてくれたものであった。当日は近郷、近在の会社に関係のない善男、善女、老人まで大手炭鉱の直営館に、老いは活動、若きは映画をと集まったものであった。スパイク付の履物は音が五月蠅い(うるさい)というのでスリッパにかえさせた映画館もあった。

映画館がその通りであったので、入浴場、特に病院の整備には意を用いたらしく、三井・三菱の大手では病院の予算は満額、戦後しばらくの間は必ず通ったもので、他の部、課からいつもうらやましがられたものである。

その頃、塩野義製薬KKが同業他社にさきかけて病院対抗野球大会を企画した。戦後物資の

不足している時代に野球をととなると用具、服装と大変な出費の筈であったが、野球場、試合のスケジュール、その他の多くの経費を塩野義が負担したことは確かだったらしく、各病院の薬品の購入額で同業他社に大きく水をあけたことは想像に難くない。随分と頭の良い人が考えたらしく、ルールとしてナインの内7人は3師会の先生であること。さらに5回まではバッテリーは共に3師会の先生がつとめること。という内容のもので、各病院間の親睦交流に強力なパイプとなったことは確かであった。

特に三井美唄炭鉱病院では、北大医学部時代硬式のレギュラーをつとめたという病院長が司令官で選手で出場したとなると熱くなるのは当然である。(三井美唄炭鉱病院は何回か全道制覇した)それに刺激されたのか市立美唄病院でも春から秋までの間に必ず何回か強化合宿をしてレベルアップを図ったそうである。私の知るところでは、空知地区では住友奔別病院と三笠市立病院、北炭新幌内炭鉱病院、住友弥生炭鉱病院、東洋高压病院砂川などが記憶に残り、三井美唄炭鉱病院と市立美唄病院、市立三笠病院と住友奔別炭鉱病院などが同じ市にあるためか、早稲田と慶応の如くライバル意識をお互いに燃

やしたようである。ちなみに慶応大学では野球に限らず、ラグビーでもボートでも必ず慶早戦と昔からいう。これは現在でも同じである。

病院対抗野球に対抗した心算ではなかったが道歯会の第1回北海道野球大会には昭和25年8月、小樽、札幌、空知、旭川と共に全道1少人数の歯会的美唄が全道5チームに伍して参加した。全道大会というので小歯会としては、清水の舞台から飛び降りた散財でユニフォームを新調したが、札幌チーム優勝。美唄チーム1勝で出場することに意義があるというしかない。余談であるがメンバー表のことで、美唄チーム飯田先生のポジションではなく、姓名の名の方をお知らせ下さいとアナウンスされ本部に行ってみると、監督、飯田右翼63歳と間違いのない筈なのに右翼という名を右翼手と早トチリした本部の役員の勘違いで大笑いとなった。飯田先生には左翼というご舎弟薬剤師さんもいるそうである。全道野球大会といっても全部で5チームなので、文字通りマンガ野球で和気あいあいそのものであった。

全道的な会員のレクリエーションとしての野球大会は、娯楽としてまた健康の増進としての意義は勿論のこと、トレーニングの間に培った団結と親睦融和に果たした役割は計り知れないものがあつた。チーム数も少なく当然参加人員も少なかったが、和気あいあいのムードは貴重なものであつた。美唄に戻れば三井・三菱の炭鉱病院での塩野義野球のトレーニングに精をこ

めては、練習試合を丁度よい相手でもあつたのでよくしたものであつた。翌年道歯会の第2回野球大会にも8月4、5日、札幌円山球場で昨年と同じ参加チームと共に対戦することになったが、(現在美唄では50周年会史の編纂中であるので、平 隆一編集委員長さんから全道大会に美唄は第3回からどうして出場しなかったのですか？とのおたずねをいただいた)50年近く前のことで、ほめられたことでもないの出来ればそっとしておきたかつたけれど時効だから。実は第2回大会の折にどうしてもナインが足りなくて2名程病院の歯科医師でない人を当日だけ歯科医師になってもらったまでは良かったが、なにによらず接待は難しいもので始めのうちは下手のふりをして、うまくごまかしてプレーをしてくれて良かったのに遂々スポーツマンシップを発揮してしまい、あとはいわぬが花というしかない結末で、美唄チームの名は第3回大会以降不出場のまま現在に至っている。第3回以降も、山崎芳郎先生と高橋常美先生のお二人は、岩見沢チームに合流してナインの一員として長期にわたって出場していた。今度はいくらベテラン振りを発揮しても、どこからもクレームが付かないのにお二人ともやんごとなきあたりのご出身のためか、つつしみ深くにすぎて勇名をあげていただけなかつたことはかえすがえすも残念であつた。平成10年を迎えすっかり若返つた美唄歯科医師会に野球部が誕生しても良さそうに思うのだがどうであろうか？